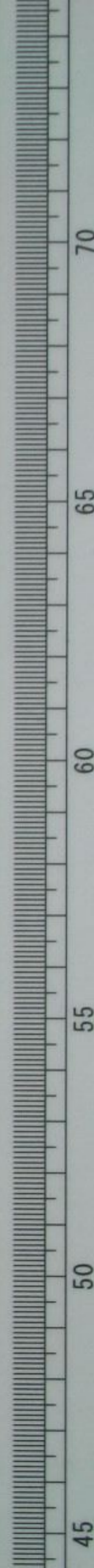


二  
 ね  
 の  
 ま  
 の  
 け  
 五

ホ 2
543
5



神本  
門  
卷  
五



詞瓊綸五之卷

あそ

○あその法びも。紐鏡の衣の法は辞まで。一の巻に過ぎ。三折法あ

の法びも。紐鏡の衣の法は辞まで。一の巻に過ぎ。三折法あ

の法びも。紐鏡の衣の法は辞まで。一の巻に過ぎ。三折法あ

の法びも。紐鏡の衣の法は辞まで。一の巻に過ぎ。三折法あ

の法びも。紐鏡の衣の法は辞まで。一の巻に過ぎ。三折法あ

の法びも。紐鏡の衣の法は辞まで。一の巻に過ぎ。三折法あ

の法びも。紐鏡の衣の法は辞まで。一の巻に過ぎ。三折法あ

○あそを五









千三 何とくぎき又ゆやきくとまされつぎくよ 志もこそ 移るきざりなれ

後拾 十 五 志もこそ 今一りりなれ

十 志もこそ 法くくすわれ

後拾 十 志もこそ 神をわれなれ

後拾 十 志もこそ ぬきまふりなれ

十九 ちりりぐふまかきりちりり 志もこそ こまらざりなれ

十九 志もこそ けこそこのハコウてのさあ。 志もこそ けこそこのハコウてのさあ。

○さくせ 下にをを依るも何なり。 志もこそ 下にをを依るも何なり。

先ん三つのちりり。 志もこそ 先ん三つのちりり。

後拾 十 船がなをふふをうねり 志もこそ 船がなをふふをうねり

十三 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

十八 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

十八 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

二十 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

二十 志もこそ ちねどいぬつ

十四 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

十六 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

十八 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

十八 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

十八 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ

十八 ちねどいぬつ 志もこそ ちねどいぬつ



狭衣

うねふーハ うねふ けあえ竹とかまーかろもや

件の方ぞとのさそアそハさやうおととやまじ

全七

まろーいふアヤとそよ まろ ころつふつーきあろあろそ

物十九

まろ ころつふつーきあろあろそ

後九

まろ ころつふつーきあろあろそ

月十六

まろ ころつふつーきあろあろそ

月二十

まろ ころつふつーきあろあろそ

全二

まろ ころつふつーきあろあろそ

お八

まろ ころつふつーきあろあろそ

うしろハ上のさその中はいふとんや格と同日まろ。まろはまろ  
又んとのまろのいふまろのまろはまろとんや格と同日まろ。

そのかたはまろ。まろはまろへてんねべ。

○あつと

けあえ竹とかまーかろもや

月九

まろ ころつふつーきあろあろそ

後九

まろ ころつふつーきあろあろそ

全三

まろ ころつふつーきあろあろそ

月二

まろ ころつふつーきあろあろそ

月十六

まろ ころつふつーきあろあろそ

月十九

まろ ころつふつーきあろあろそ















廿三 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

○上のてふまののさのひのとは下まで及ぶ梅

廿六 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

廿七 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

廿八 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

廿九 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

三十 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

三十一 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

けもがひ 狂いとたり

○とニニニニのま

三十三 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

三十四 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

三十五 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

○とニニニのま

三十六 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

廿二のま ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

三十七 ちふゆきと ねりひもいとぬゆがふまらね 物さし 梅乃月  
ちのさぐ 梅ぞもいづとも上のてふまののさのひののト  
へも及ぶぞと

○とニニニのま

〇十日

四 花のよきと 月日とあはれまふはらへりてはるかにあはれり  
○あはれまふと 月日とあはれまふはらへりてはるかにあはれり

全 たちあがくまきり 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

芳 くの老む人なき川ちれりあり 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

かまふ 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

同 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

同 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

同 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

同 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

後 十一 いたぬまはまはらへりてはるかにあはれり  
十七 たくむ乃あまはらへりてはるかにあはれり  
後 十六 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり

五 花のよきとあはれまふはらへりてはるかにあはれり





○おおよそ之れ上る切く核乃辞よりあつが定まりあつ。切く核の辞より

毎々の一二例をいへば、あつが定まりあつ。切く核の辞より

が定まりあつて、あつが定まりあつ。切く核の辞より

へくか又あつて、あつが定まりあつ。切く核の辞より

て、あつが定まりあつ。切く核の辞より

て、あつが定まりあつ。切く核の辞より

べ。近き者の人なけむら先を漢して、あつが定まりあつ。切く核の辞より

みま月も、あつが定まりあつ。切く核の辞より

らぬ、あつが定まりあつ。切く核の辞より

て、あつが定まりあつ。切く核の辞より

く、あつが定まりあつ。切く核の辞より

か、あつが定まりあつ。切く核の辞より

但し上るそのや何しそむら辞あつ。その核び辞よりあつ。上りて

せ、あつが定まりあつ。切く核の辞より

ご

○ごハトへもな来て、あつが定まりあつ。切く核の辞より

まのまのまに、あつが定まりあつ。切く核の辞より

ふゆ、あつが定まりあつ。切く核の辞より

上のまのま核も、あつが定まりあつ。切く核の辞より

あゝあゝとをまの今もまを。清くはとを上の日の秋もあせり。すて清くは  
とに志がどと志がどとつてま

右 祿もあきてむぢらあまう ど と 喜ぬりぬきやー社とどづこへん

同 人ゆもを里まいつしてあまう ど と ちうけみやこ色うねあまう

右 身ふら加くまふら。旭をまらうら秋をばよせふあひしあう ど と

右 十六 八...ゆの...とにぬはてま あ う ど と ま の う ら ま の あ り し ま

後 十六 心さー望は社むづむう日きあう ど と し ら の あ り し ま

右 十七 くらわ山花をまけしとえー夕花をけやふ事ハるあう ど

はあうハ...のあうのあうと一つあり。まてあうをまうとハ。あうをとお射す  
辞あり。

け介のどまご...とあう...もねー

ま

○花ねのまハあう...なるま

○やとを辞ふあま

右 十三 人あう...れとあまきぬあまーれれを若とくまもま... ま い ん

後 十九 神ぬま...日かまハととあう...とゆくとま... ま ん

右 十 けふ...まをけう... ま れ

後 十九 まう... ま え よ

右 三 五月... ま ま

○まけま五

○十八

右四 秋が花ちこしくんわき花あきりぬまを。[ま] ゆうんよはひくも  
 同又 立寄り見て。[ま] 月こしくんりみぢぢうぬとあさよまのハまきりけし  
 同十三 ちひくくばあふ。[ま] かめいむくまの海をうた衣りらふりけあゆま  
 同三 よりすがく見て。[ま] 月こしくん秋乃月こしひ田ふきなめくまん  
 同 庭ききて見があらもてまゆきぬまをさうて。[ま] ゆうん秋秋乃星  
 新十三 志がうけり見て。[ま] まん伴跡ふきまからしをぬまゆくま  
 〇まのをたこのま。[ ]  
 右五 志うらのしなびゆ。よりハ女弁花わらまむ宿り極て見ま。[ま] 秋  
 同又 秋のきくあちゆうけうはくごしてん花よりまきこまう始見がま。[ま]  
 同十 秋らまど月のうつくしみヤハあまむらり花とらしくんをわり。[ま]

同十六 清ひるゆくまことひめてまうくどまのあまやとにむらり。[ま]  
 同十七 うけくま波あつつまんかうあらまたりまゆさふたてといまほ。[ま]  
 同二 君とのまゆまふらま。[ま] はうくむいふちととく花はゆらん  
 同三 夏秋あままぶよひまがうぬゆま。[ま] まのいづこに月やうまん  
 同五 ちくま秋あまむら。[ま] いうふし秋の本葉波らにむむん  
 同十一 人のまをあうりくめま。[ま] 月こしくんりみぢぢうぬとあさよまのハまきりけし  
 同十二 かりやうひままき。[ま] あひえんと秋のま葉波らにむむん  
 〇ふよあふま。[ ]  
 右六 道乃いろま若りまどアそて見むむた加ま。[ま] ふふやへ人のまをく

後拾  
八

みやこいつらさるむかりぶそつらおとをきて人さ日くれありハ  
右々集の初かかどうとけをけりり集後おさふらに

〇一のさ

右七

きしらに勢なりまに都ふあらん年をけりらるる

右八

けりらるるをめぐりけりけりけりけりけりけりけり

こしはけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

水

〇一のさ  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

〇一のさ  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

後拾  
十三

かきりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

玉九  
九

くやいさのさるむかりぶそつらおとをきて人さ日くれありハ

右十

けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

右十一

けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

赤原

けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

〇一のさ  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

〇一のさ  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

日十七 ぬきみどろ人こそをまじしきくむはまねくもちるう世のせきよ 小

後七 秋のせはあ一きのあともあやのゆあきあそりど 小

百十五 せがしう まあよりねはねあゆく人があままうう積りね乃とありはきん 小

計三 有ぬ乃月をまきぬ 小 出ぬまどあふしぬうは海うきま 小

日 座ねおとはまうどかとうぬ 小 夕ふあはた 小 あつたがりのおはちあうたてづのありにあらう

〇なく 小

右二 ちううあちううあちううあちううあちううあちううあちううあ 小

日十四 ちうのくはまのぶりがらうう准ゆあ 小 ちうあ 小

日十七 ちうあ 小 ちうあ 小 ちうあ 小 ちうあ 小

日二 若面り 小 若面り 小 若面り 小 若面り 小

日十九 むつぶとともま 小 ぬあ 小 ぬあ 小 ぬあ 小

〇あ 小

右二 浅井生れ 小 浅井生れ 小 浅井生れ 小 浅井生れ 小

百四 てる月をや 小 てる月をや 小 てる月をや 小 てる月をや 小

右二 ちう 小 ちう 小 ちう 小 ちう 小

日三 ぬ 小 ぬ 小 ぬ 小 ぬ 小

〇一 小

計二 若 小 若 小 若 小 若 小

〇 小

〇あ 小

○二つふ

玉 秋乃くまへのあふむうまう尾花が風ふ 春は月夜

月 夕色もくをさゆさふ 春は夢かきあいつのふらさるる秋

月 夕きふうはさそひらるるひままたえー 春 今のあはれ

春の心に思ておどろ二つをさるひらるる間ふささるるあり。やーぎー  
けゆるおし。又何とてとちが。凡雅又後系極をとおしとさるるあはれし  
るよりあ。月ふささるうはれ。けふさひもさるる。月又春のあはれ  
いつまで。月と春とをさるるうらつらとさるるはらうらふれがきり。

○一のふ

風 ちくくまきりやもてふたまうりりそふ子身の長水かこん

秋 見一とあひもききささるるおのこさるる春のさるる菊

けふさひのふらけふらやーくすめ。秋見一とさるる。返きおははれさる  
るにありなさと。おまきさるるはらうらつらとさるるはらうらふれがきり。

あはれささるるうらつらとさるる。やむとさるる。秋見一とさるる。おのこさるる。おのこさるる。  
あはれささるるうらつらとさるる。おまきさるるはらうらつらとさるるはらうらふれがきり。

○あふせんふ 四の春何の秋りむささるる

○かふ 四の春何の秋りむささるる

て

○ほののていあはれささるる

○てきてーてきてよてんてきてまーてきてまー

このよぐらのていれの活用し。けふさのさつづの秋りあはれ  
つよを考ゆべー。○てきてりつよあはれをさるる。おまきさるるはらうらつらとさるるはらうらふれがきり。

○あはれまふ

○内二

後三 かくあざうちうでよけやをけうて てぬ花のさきいもあくとるぶく  
いてとたのてと一つうけはき上るいけうむまうらうきう年ごう  
人のこころにわかれやをせるといふさの下るといふ核めておまをこ

新七 よれ中城こころだうとへそやう邪うだれさうさのいひ ふて

後右 おりひつゝなふらうさうまをべ ふてあまのうけとくありらう

同十八 今こんとらひくをわらういのち ふてまらふあなべーはうめれぞう

新十八 あれうまにまきくをまきま ふてうらめれおのきけらめん

同 ちのぐえはかよう枝をさう ふてとくそらうまきけらのむかひ

同 ちとさういひのちあま ふてやくまの條の衣まき

後十 されりうま ふてくれをわけていふあうらう

新四 流草乃あはれうまをちまき ふて里をばうさげあまきふら

同 身りうまのあひを枝のう ふて此らうらましくまあはれ

かくのあまう上りまをうまをさうとらう。二つの格きり。  
あまのうまのあまをさうとらう。

○あま ふてあまのま

新 ちく花りあひつゝ女のうらま ふていひのうらま ふて

後十一 浪石よりうまのうま ふてうまのうま ふて

右四 秋萩をまきうま ふてあまのうま ふて

後 ち ふてあまのうま ふて

同六 万八 ふてあまのうま ふて

○あま ふて



右 今まうにちかべき人とおもひしどはまむぐうを門せうてへ

右 七 むうよまをなきやどのまは茶をたの布にこそあそぶてへ

右 八 糸のまやみりてへてへを言砂の毛上ふたてをねもみりり

六 佐 ちひてへむまうぬまふもけうねふあやしくまがふさかろうね

こねふとくをつめしてへとらつとくをほくまきててあといふまをねる。そそこての妙ふ入まき舞まねをまじりてりたうててあ今

〇てう 三のまごの妙りせり

〇てよ 虫のまよの妙ふまき

〇あどて 四の巻のの妙ふ出せり

て濁

〇でハ どのほがまうまき。ののであまのまき

〇あで けあはんなんまきと一つま。まの物どたるま

右 十三 んらまかろわがまをううとまねばやうままで 海士のまあくら

右 十六 かひもなきまきねけり。たうあのみまきまきまで 海あまらん

右 八 うれよれまきかろままで うまうりゆまのひ乃わくふとま

右 六 中くにまきまきまで うづま火のいきまきまきまきまきまきま

右 八 おり人まきまきまきまきまで まあまきまきまきまきまきま

右 十二 けうかろまきまきまきまきまで まへてまきまきまきまきま

右 十八 つまきまきまきまきまきまで たいてまきまきまきまきま



はあはあどあじ

○そのまのま

ち 十 人さりの我くもたや **ま** 花さきまをいほおせて **ま** しののけ

後 七 いづらふあを成ゆらんかがつ **ま** ぬぬかきつハ秋ぞとぞらん

後 三 ちごがー **ま** 事しゆいの秋 **ま** 西の **ま** 東さへあや **ま** 人をあーま

いあハ程いとあやーまどんちがー

○勿然まのま

ち 三 交心しなくほとまこと **ま** けは **ま** 拍子 **ま** ね **ま** ね **ま** ね **ま** ね

同 四 かくらさ **ま** 花の **ま** 心 **ま** 秋の **ま** 花 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

同 五 ささー **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

同 一 ちりり **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

同 二 ちりり **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

同 三 ちりり **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

同 四 ちりり **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

同 五 ちりり **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

同 六 ちりり **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

ことハ下にそやととら  
ちりり **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心 **ま** 心

十五 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 元浦 葉がももたち ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま  
くわくハなまをニつまひし。一つはつてすあわ。又花のなま。その下ハなまを  
 け例を六花も。まやうそ風あそびなま。なれどなまハなま  
 のなまを—て入し。や。—。—。—。

十六 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
こまハなまらけニつまひし。上ハなまのなまらけ。又けの二  
 のなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 ○六花にせごがかりなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 上ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 下ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 花ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 葉ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 枝ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 花ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 葉ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。  
 枝ハなまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。なまらけ。

十七 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま

み

十八 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま

十九 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十一 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十二 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十三 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十四 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十五 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十六 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十七 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十八 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 二十九 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま  
 三十 花のなまらけぞるるもささづきしの花の枝ふゆ ま ま ま





十月十二 喜結せりーあつちききつたつてーきんをきつてふ人のうらなよ  
 二 くらぬ花のちりーもかくきしあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 後五 さくばよーとわさつちふをききばあを候りーあつちききつて  
 十月十 ふひーききつちの束ねや秋よーあきじつにたちかたはく  
 十月十二 ゆきよーあきーき人よつちいんをききあこの後をさびかりにき  
 十月十三 かくの松乃ーはひーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十三 くらぬ花のちりーもかくきしあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十七 秋のよーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十七 有る山おほはさくつちをききあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十六 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ

十月十四 さつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十五 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十六 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十七 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十八 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月十九 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十一 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十二 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十三 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十四 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十五 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十六 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十七 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十八 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月二十九 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ  
 十月三十 月よーあつちききつたつてふ人のうらなよ

新六 ながびきばにが山のふもとをまわしーみやこの人よ何んをたえん

狭衣 早炊粥のそとけりくそとぬまたとつぎの煙よぬきもつこよ

こまろハよニつまで。上よりハ呼せよ。下よりハ作まらよ。○玉葉十かきかき  
まさと人いしてあうたーくおひ出よ。夕暮の光がくまあわハおひこし

○てよ

古四 せきかへは天の川系のもくーちまをくろりねをかぢらうーてよ

新三 たの老あうんーぶさうりねちまきりふてうによの中はまふあーてよ

任次 西院 彦星に恋をまうりぬあふけがをるぶつる雲を今ハや巻てよ

新十一 いせ糸 なるはがくとみトかき芦のふーのまもつとて此世をさーてよこや

後六 十六 いのこきんあとおまうそかきりてよさても巻てまぬーを懐れ世

新十 かくてのこよふ有ぬ乃月あうばをがくーてよ天降る神

万十 月うきとあにちかくをまきまきてよとるん後よまうーつらあや

○こよ

古三 やよやまてふほそぎはあつせんそれ中いせこいひ

新七 日が婦みがあつびりせよとほまうーぬいとにまらるハハカ

新八 けらうそふの海もせしむちらふらるこに就よりまられゆくこよ

新八 あさまうーやこハちふしはまぬぞこよあせよとてまられりらる

新十五 んまうこよえー西教もちまうりーもあせどあがうつあぬバ

狭衣 羨りこよえーおも物もつーいさうかうれたためーもほしけしあふ

○こよ

新三 三月はれ九日おとふはひ葉は花のうひまこかいーこよ

○おはなをま

011



接衣 月ト〜ハミセヨキ  
何れぬき衣よ〜  
かきまよ

祢

十 木りもんと粧来ーおもとを物さたき〜  
初 何れとはん〜  
十三 何れ〜  
十九 名が代〜  
廿二 あふ〜

月十六 善好ハ花のまきまにふきまて  
廿一 ぶらまよたをむき〜  
廿二 きえぬ〜  
廿三 何れ〜  
廿四 何れ〜

志 やまき舞

○やまき舞の志  
一 何れ〜



右九 母のぐくとぬる結くくの船香に 晴がらまゆく船志 ぞあや

同十七 ちやゆの字後の控書あれを志 ぞありとハあや年結へぬ志 ぞ

万八 たちぢを結花ちの里結わくまをかく志 一つあぐ日志 ぞあやま

同十八 結くくを志をかりやいさへもあま志のく一つ結の志 ぞなく

志くくハあぞとつらる結あり

右二十 あくくし結年結くくめふかく 志 こそあ年をかひてたのくままつえ

いせ 柳 ありやこの天結ゆぐくとく 志 こそあがみきくたてまつりらる

志くくハあぞとつらる結あり

右二十一 けふは志をそとてきく結くくハあは結くくあは結くくあは

日 けふは志をそとてきく結くくハあは結くくあは結くくあは

同十二 つらち結くくやの中ハあらくハあふ志 くら人をかりひそめあん

同十三 くらまつぬ乃下たくくをあふ志 くら人を先づこの世にぞいけらん

志くくハあぞとつらる結あり

右十二 結の回結くくはく人をくくしづく結あぞらるりくくを結くく

くめりくくあはあやまをむむく結あぞらるりくくを結くく

同十四 月兼よりより一人ハ結あやまこくあくくくりま結くく

同十九 くら名の結くくをまつ世うぐひを結くくくくといひ志 くら

後九 くら川海結結くく結くくをあふくく結くくくくみ 志 くら

後十 くらくにあくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

志くくハあぞとつらる結あり

○むらさき

○七目

あ 一 じがくふくを結り **志**も何うかたに書のみまげばまづそかみき  
一七六 秋ねも身をかて **志**もふまゝ人乃あつたさふあふらん  
一七七 かぎりねえ志がく先あるまゝ **志**もわらぬ **志**もわらぬ  
一七八 いくよ **志**もつれいせ **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一七九 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八〇 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八一 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八二 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八三 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八四 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八五 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八六 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八七 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八八 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一八九 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一九〇 今 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく

秋 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
格 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
乃 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
か **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
心 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
二 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
こ **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
ま **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
一 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
よ **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
二 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
三 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
四 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
五 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
六 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
七 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
八 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
九 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
十 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
十一 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
十二 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
十三 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
十四 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく  
十五 **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく **志**もあそびをかく





らく

ちんくさきよりかひりきまきらく  
塩みては入ゆるしむねもあまきらく  
けりけちを万葉にまき七の毛をたのむらき

まく 附ま

りくづらふゆきてハまきぬ  
かりまぢらまきぬきハかき録もまく  
まきぬきぬきぬき

りくづらふゆきてハまきぬ  
やくえは里乃りまく

りくづらふゆきてハまきぬ  
りくづらふゆきてハまきぬ

まきのうらぬ時を  
あつたり七の毛をたのむらき  
まきぬきぬきぬき

又件のまく  
まきぬきぬきぬき

まきぬきぬきぬき  
まきぬきぬきぬき

きく 附き 書き

右十八

中ねく **きく** ふあまなかくんた本葉にやうのゆきやきあ

同十九

またあれどあまのよ **きく** かうやのみがそらとあ **きく** おさ

後二十

さくみり **きく** 海衣の係り **きく** 月日のき **きく** じあ

左二十一

たよが **きく** たのき **きく** 中ね **きく** けり **きく** のか **きく** ぶきをりて

又二十二

き **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

ト辞

けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

か

か **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

きは又も格のき **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

右十

たれをより **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

後十一

むぐり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

於十二

いと **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

後十三

あ **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

同十四

ゆう **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

同十五

き **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

左十六

ね **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり **きく** けり

か

か



後拾 <sup>十</sup> かりひよはあはりのちぞまきしなげま。その葉をいふがまよ。かー  
 三 又まらふくうし。あまうううに。かー <sup>四</sup> 枝とまわりのまわらへし。かー  
 六 若くしてあやとけん杖のよきまて。かー <sup>五</sup> 杖のまわりのまわらふ  
 十七 <sup>六</sup> しゃくしとまの葉のまど。かー <sup>七</sup> しゃくしとまのまわりのまわらふ  
 一 <sup>八</sup> さんこ。かー <sup>九</sup> 梅さかりのまど。かー <sup>十</sup> 梅さかりのまわりのまわらふ  
 大 <sup>十一</sup> ちんば。かー <sup>十二</sup> ちんばのまわりのまわらふ  
 後拾 <sup>十三</sup> とへかー <sup>十四</sup> まわりのまわらふ  
 八 <sup>十五</sup> ちんば。かー <sup>十六</sup> ちんばのまわりのまわらふ

かくのちんばへかをほす。とりう又後拾中のまわりのまわらふ。かーやとまをほす。いしとまわりのまわらふ。

初学 <sup>十七</sup> ちんば。かー <sup>十八</sup> ちんばのまわりのまわらふ  
 一 <sup>十九</sup> ちんば。かー <sup>二十</sup> ちんばのまわりのまわらふ  
 二 <sup>二十一</sup> ちんば。かー <sup>二十二</sup> ちんばのまわりのまわらふ  
 三 <sup>二十三</sup> ちんば。かー <sup>二十四</sup> ちんばのまわりのまわらふ  
 四 <sup>二十五</sup> ちんば。かー <sup>二十六</sup> ちんばのまわりのまわらふ  
 五 <sup>二十七</sup> ちんば。かー <sup>二十八</sup> ちんばのまわりのまわらふ  
 六 <sup>二十九</sup> ちんば。かー <sup>三十</sup> ちんばのまわりのまわらふ



〇の書

off-

